

金城学院で活躍する
先生をピックアップ

Kinjo Spirit

金城スピリット



「いつも見ていてくれるし、声をかけたらすぐ来てくれる。ときどき怖いけど…ね」
子どもたちがそんな風に思ってくれたら嬉しいし、そうありたいという岩崎先生。
そのためにも、遊ぶ時は徹底して、本当に友だちのように遊ぶ。
でも、きちんと何かを伝えなければいけない時は
姿勢を直し、声の大きさやトーンも変えて、しっかりと伝える。
そんな日々の中で今日も子どもたちと向き合い、その成長を優しく見守っています。

「遊びや生活の中で伝える」という方針に共感して。

私が幼稚園教諭を目指すようになったのは、両親が共働きで小学1年生から学童に通っていたこと、そして母がクリスチャンで、幼い頃から教会に通っていたことがきっかけです。学童でも教会でも、さまざまな年齢の人たちに囲まれて育つなかで、自然に小さい子たちの面倒を見たり、一緒に遊ぶことが好きになって、いつの間にか「保育者になりたい」と思うようになっていました。

金城学院幼稚園を就職先にしたのは、園見学で出会った先生方の姿に心を動かされたからです。勉強を教えるのではなく、「遊び」や「生活」の中で子どもたちに寄り添いながら伝えている姿がとても印象的でした。また、日曜・祝日には必ず教会へ行くという生活を続けていた私にとって、園生活の中にお祈りや礼拝の時間があることにも自然な親しみと安心感を覚えました。

ニュージーランド滞在中もずっと園とつながっていた。

入職して4年が経った頃、一度退職してニュージーランドで1年半

を過ごしました。学生時代にインターンシップで訪れたことがあり「もう一度行ってみたい」という思いが募っていたこと。ワーキングホリデーの年齢制限もあり、思い切って飛び立ちました。

現地では、まず半年間語学学校で学び、その後は約1年間、輸入会社の工場で働きました。最後の1か月間は国内各地を旅して、自然や食、アクティビティを満喫。さまざまな文化に触れ、人の優しさや多様な価値観に出会えた時間でした。

ありがたいことに、帰国した翌月には非常勤として再びこの園で働かせていただくことになり、翌年4月からは正職員に戻ることができました。ニュージーランド滞在中はいつも子どもたちのことを思っていたし、旅立つ際には保護者の方々が送別会を開いてくださったり、「卒園児のお別れ会で流したいのでメッセージを送って!」と声をかけてくださったり。離れていても温かいつながりを感じていました。

子どもから教えられた「黙って待つ」時間の大切さ。

本園にはベテランの先生から若い先生まで、個性豊かで尊敬できる先生方がたくさんいます。それぞれの良いところを学び合い、支え

子どもたちにとって

いつでも頼れる一番の味方でありたい。



岩崎 林子 教諭

IWASAKI Akiko

金城学院幼稚園

- 2014年3月 桜花学園大学保育学部 保育学科卒業
- 2014年4月 金城学院幼稚園入職
- 2018年3月 金城学院幼稚園退職
- 2018年7月～ ニュージーランドで語学
- 2019年12月 研修後、ワーキングホリデーとして現地企業で働く
- 2020年1月～ 金城学院幼稚園で
- 2021年3月 非常勤教諭
- 2021年4月 金城学院幼稚園に正規職員として復職 現在に至る

合いながら日々の保育に取り組んでいます。もちろん、子どもたちから教えられることもたくさんあります。その一つが「ただ黙って待つ」ということ。

以前、気持ちを切り替えるのに時間が必要な園児がいました。そんな時はいつも、もう一人の園児がずっと隣にきて座り、何も言わずにただただ一緒に待っているんです。やがてその子は自分から気持ちを立て直して戻ってきました。声をかけるでもなく、ただ隣に座っているだけで「大丈夫だよ」という思いが伝わり、安心したり力をもらっていたのでしょう。何かと言えばすぐに声をかけてしまう私は、子どもたちのその姿を見て、ハッとさせられました。それ以来、私も言葉を急がず、黙って子どもの隣に座ることがあります。静かな時間の中で、子どもが自分で立ち上がるのをじっと待つ。その大切さを子どもたちが教えてくれました。

保育の仕事は本当に楽しく、これからずっと続けていきたいと思っています。経験を重ねるなかで、ときには「こうじゃないかな」とか「きつこうだろう」と、偏見や先入観を持って子どもたちと関わってしまうことがありますが、そうではなく、いつもまっさらな気持ちで子どもたちに向き合いたい。「遊び」や「生活」を通して日々の成長と一緒に喜び合える、そんな保育者でありたいと願っています。

教えて先生！

My Favorite

パンダ愛に目覚めたのは社会人になってから。もともとパンダの白黒のフォルムやゆるさが好きだったのですが、4年前白浜のアドベンチャーワールドでリアルパンダに会ってからどっぷりとハマってしまいました。残念ながらパンダたちは中国に帰ってしまいましたが、今はパンダグッズをいろいろ集めて楽しんでいます。



集めたパンダの絵本。園にも数冊置いて、子どもたちにも楽しんでもらっています。

使っているハンカチと靴下はすべてパンダ柄！ぬいぐるみや小物も見かけるとすぐに買ってしまいます。



Q. 岩崎林子先生ってどんな人？

どんな仕事も快く引き受けてくれる

チームのムードメーカー。—— 児玉芽園長

岩崎先生はキャリアも経験も豊富ですが、いつも明るく場の空気を和ませてくれます。「これ、だれかやってくれないかなあ」と誰もがためらうような仕事も「わたし、やりますよー」と引き受けてくれます。だれもが忙しく「時間がないなあ」と引き受けるのをためらうような場面でも率先して動くその姿に、チーム全体が活力をもらっています。



隣にいてくれるだけで安心感がある

頼もしい存在。—— 千葉由紀恵先生



保育者になって3年目。アッコ先生(岩崎先生)は1年目からずっと隣の教室にいてくれるので、とても安心感があります。私たち若手への気遣いも忘れず、困った時にはさっと手を差し伸べてくれる優しい先輩です。以前、職員の聖書勉強会で思わず涙が止まらなくなってしまった時も、翌日アッコ先生が「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」という聖句を送ってくれました。その言葉は今も机の前に貼ってあり、私の支えになっています。

子どもをぐっと惹きつける保育に

日々圧倒されています。—— 徳田真衣先生

今年はアッコ先生と一緒に年少のクラスを担当しているのですが、年少の子どもたちへの視線が本当にすごいと思います。一人ひとりの個性や背景をしっかり把握して、その子に合った声かけや関わり方をしている姿に、毎日学ぶことばかりです。年少さんは気持ちの切り替えが難しいのですが、アッコ先生は活動にメリハリをつけながら自然と子どもたちの集中を引き出している。「私もこんな先生になりたい」と思いながら、一緒に保育にあたっています。

